

2008年度 卒業論文講評

2009年2月 小関 隆志

眞野暁仁「エイズとサハラ以南アフリカ」

世界で最も貧しい地域であるサハラ以南アフリカ（Sub-Saharan Africa ; SSA）の問題について、残念ながら日本ではあまり関心は高いとはいえません。そうしたなかで、眞野さんはあえて正面からサハラ以南アフリカの貧困とエイズの問題に向き合いました。

この論文では、サハラ以南アフリカの貧困とエイズは互いに強い因果関係——貧困であるためにエイズになり、エイズであるために貧困になる——にあると主張しています。もちろん、エイズだけが貧困の原因ではありませんが、エイズと貧困の悪循環が問題を複雑にし、解決を困難にしているかにみえます。簡単に解決策が見いだせない、重い課題ではありますが、この論文の終章では、それでも何とか解決の糸口を見いだそうという努力が感じられて、好感を持ちました。

サハラ以南アフリカは日本から遠く離れており、気軽に現地を見に行ける状況ではないため、本やテレビ、インターネットの情報だけではなかなか実感が湧きにくいのですが、眞野さんはアフリカのエイズ問題に取り組んでいる日本国内のNGOを訪問して、現地の実情やNGOの活動内容を聞きました。現地で活動している人の話を聞くことによって、間接的にでも実情に触れることができ、問題意識を深めることができるのではないかと思います。

卒業後、眞野さんは出版業界に就職する予定ですが、アフリカのエイズと貧困に関する情報と問題提起を、出版を通してもっと社会に伝えてほしいですね。